

日本語用論学会第 28 回大会プログラム（速報版）

大会テーマ：「カオスと秩序」

開催日時：2025 年 11 月 29 日（土）10:00、11 月 30 日（日）9:00 開始（両日で別棟）

Day 1

	Room 1	Room 2	Room 3	Room 4
10:00-12:00	WS1 オーガナイザー：菊地 礼（長野工業高等専門学校） 佐川 寛知（神戸大学）・貝森 有祐（流通経済大学）・山崎 由佳（京都大学 [院]）・平川 裕己（気象大学校） 引用は何を生み出すのかー語用論的効果の理論と記述を通してー	WS 2 オーガナイザー：笹本 涼子（奈良女子大学） 後藤 リサ（関西外国語大学）・黒川 尚彦（大阪工業大学）・長辻 幸（公立小松大学） 解釈の構築をめぐる語用論的メカニズムー 関連性理論からみた柔軟性と制約	WS 3 オーガナイザー：木下 蒼一郎（慶應義塾大学） 松田 俊介（東京大学）・氏家 啓吾（東京都立大学 [非]） 言語の中の「形あるもの」とそうでないもの：「形式」という概念の再定義に向けて	WS 4 オーガナイザー：木村 快（慶應義塾大学 [院]） 吉川 正人（群馬大学）・浜田 啓志（杏林大学他 [非]） Novel Imitates Normal 一模倣と創造の言語学ー
12:00-13:00	Lunch Break			
13:00-13:35	Shuu KASAHARA (Aoyama Gakuin University[GS]) De-gendering The Account of 'Gendered' Pronouns	平川 裕己（気象大学校） 禁止サインのレトリック：隠喩が関与する事例の分析	李 鳳梅（京都大学 [院]） 日常会話における気づきによる活動の脱線と復帰ー話し手による脱線開始のケースを中心にー	孫 雨欣（広島大学 [院]） 不同意談話における話題管理の比較ー日本語母語話者と学習者の配慮を焦点に当ててー
13:40-14:15	Bin ZHANG (Dresden University of Technology)・Xiaoling ZHANG (Beijing Foreign Studies University) German as an L3: Development of Pragmatic Competence in Chinese Students of German Studies – Findings from a Qualitative Pilot Study	有光 奈美（東洋大学） 広告言語における緩和表現装置とパロディ表現装置：含意と法的境界の語用論的分析	谷 智子（関西外国語大学）・岸本 聖子（愛知県立大学） 公共掲示物の行為促進型表現に見るポジショニングの日仏語対照研究	木場 安莉沙（名古屋文理大学） 「コロナ禍」の語りから見える医療をめぐる問題とアイデンティティの変化

14:20 - 15:20	ポスター発表 ● Saki ARAKI (Independent) Intercultural Mediation as an Act of Pragmatic Awareness and Learning: Focus on Japanese BELF Users in International Companies ● 岩間 由依（北星学園大学〔院〕）・柳町智治（北星学園大学）プロ棋士の発話に見られるメトニミーの語用論的機能 ―「難しい将棋」といった表現をめぐって― ● 泉 大輔（立教大学）バラエティ番組『水曜日のダウンタウン』の企画名における「文の包摂」 ―ボックスティッシュ向けられたら特に必要じゃなくてもとりあえず1枚取っちゃう説― ● 中谷 博美（滋賀県立大学）英語の付加疑問文の語用論的特性に関する一考察 ―日本語・中国語・韓国語との比較対照分析から― ● 直井 瞭（東京都市大学〔学部〕）・畑 和樹（東京都市大学）なぜ「まっすぐ」で終わらないのか：運転における『知識』と『認識』の交渉 ● 清水 京香（同志社大学〔院〕）GoVPing 構文が生起する文脈の選好性―力動性を用いた分析の提案― ● 杉山 郁美（宇都宮大学〔院〕）日本語会話で用いられる代用表現「あれ」についての一考察―話し手のメタ認知的活動と「あれ」使用の関係に着目して― ● 種市 瑛（立教大学）・抽冬 紘和（横浜市立大学）沈黙の解釈差に見る共通基盤構築と自己中心性の相互作用 ● 田久保 紗貴（法政大学〔院〕）ツンデレキャラは本当にツンデレ表現を使うのか
	(10分休憩)
	Room 1
15:30 - 15:50	会員総会 General Meeting of Members
15:50 - 16:05	大会発表賞表彰式 Best Presentation Award Ceremony
	Room 1
16:15 - 17:45	基調講演＜オンラインによる同時配信有＞ 片岡 邦好（愛知大学） ポエティクスと語用論の接点
18:00 ～	懇親会

Day 2				
	Room 1	Room 2	Room 3	Room 4
9:00-9:35	李 曉霜（京都外国語大学 [院] ） 様態副詞と動詞の共起に関する研究	白石 暖哉（京都大学 [院] ）・黒田 一平（龍谷大学・京都ノートルダム女子大学・京都大学 [非] ） 短冊に書かれた言語表現の解釈における語用論的な影響と制約	岩橋 一樹（京都先端科学大学） Leave no stone unturned の形式と意味における創造性をめぐって	水島 梨紗（札幌学院大学）・大澤 真也（広島修道大学）・大木 七帆（北海道武蔵女子短期大学）・阪上 辰也（広島修道大学）・田中 洋也（北海学園大学）・中西 大輔（広島修道大学） 語用論的解釈の自動生成とその課題：LLM を用いた相互行為分析の可能性
9:40-10:15	菅谷 友亮（中京大学） 視線が明らかにする指示詞選択のための語用論的・視空間的文脈	野村 涼（Stanford University [院] ） 過去の事柄に向けられた命令文“過去命令”について：テンス・アスペクト・否定の観点から	山内 昇（大同大学） 話題転換標識における which の指示機能に関する考察：聞き手の反応からわかること	永井 宥之（奈良先端科学技術大学院大学） LLM の時空間メタファー認知
	(10 分休憩)			
10:25 - 11:00	甲斐 さくら（アジア日本語学院） LINE における「聞き手」という役割の変化―話し手による言い切り形の選択から―	王 一臻（京都外国語大学 [院] ） 感情形容詞の副詞用法の研究―「嬉しく V・楽しく V」を例として―	瀧澤 純（宮城学院女子大学） 物語中の発話が皮肉・嫌味、嘘、冗談、本音として理解されるための表情と声の情報	高木 杏実（北星学園大学 [院] ） 言語相対仮説の再検討：外国語効果に基づく検証と考察
11:05 - 11:40	山下 悠貴乃（十文字学園女子大学） 丁寧な依頼表現としての「てほしいです」「ていただきたいです」の使用について―Teams チャット上のやりとりの事例から―	尹 盛熙（関西学院大学国際学部） 「A ハ B ダ」の使い方―名詞述語文から見た日韓の言語化戦略の違い	森 貞（福井工業高等専門学校） 付帯状況を表わす“without + 名詞 + 過去分詞”の生起に関する認知言語学的・語用論的研究	四谷 晴子（法政大学） 日本で働く中国人会社員の規範意識と人間関係―重負荷依頼に対する発話分析から―
11:45 - 12:20	北澤 茉奈（杉野服飾大学）・高村 遼（京都精華大学） 「草」の語用論的機能とメディアの影響―X と LINE における使用の比較―			

12:20 - 13:00	Lunch Break		語用論茶寮 (12:00-12:50) タイトル：「アイデアの育て方」 登壇者：名塩 征史先生（広島大学） 工藤 俊先生（駒沢女子大学）	
13:00 - 13:35	井上 大輔（フリー） 日本語における語用論的前提の戦略使用—セールスやセラピーを題材に	数納 風香（北海道大学〔院〕） 話し手のフェイス意識から考える「マウンティング」	Christopher LONG (Tohoku Gakuin University) The belief in shared context: a cognitive processing explanation for variation across languages	岡田 純音（京都大学〔院〕） 否定のコピュラを用いたメタファー表現とその談話的機能
13:40 - 14:15	井出 里咲子（筑波大学） 離陸前機内アナウンスのユーモアにみる詩的語用論とコミュニケーションの公共性	大塚 生子（大阪工業大学） 『世界一ブス！』と言われて：非命題的暴言におけるフェイス侵害と感情の構造	Mitsukazu NAKANISHI (Independent) Ideational and Textual Components of the English 'be-ing' Construction	轟 雨晨（北海道大学〔院〕） 中国語大規模コーパスに基づくコロナメタファーの使用と現実状況変化との関係性分析
	(15 分休憩)			
14:30 - 17:00	シンポジウム＜オンラインによる同時配信有＞ テーマ：混沌としたデータのなかに意味を見出す 登壇者・タイトル： 崎田 智子（同志社大学） 語りの多層性とカオスの秩序—史実伝承における対話性と認知— 高木 智世（筑波大学） 日常会話の中の『混沌』に見る秩序—日本語言い淀み形式の相互行為的分業体系— 細馬 宏通（早稲田大学） 訪問介護における共同調理—混沌とした台所で共同注意を達成する方法—			
17:00 - 17:10	閉会式			